

平成30年度

第3回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(平成30年11月 第三回)

- 1 日 付 平成30年11月18日 (日)
- 2 場 所 杉久保小学校 体育館
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
教育委員 平井 照江
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎
(総務・社会教育担当)
教育部次長 小宮 洋子 教育部次長 伊藤 修
(学校教育担当) (財務・法制担当)
参事兼教育総務課長 中込 紀美子 就学支援課長兼 小林 丈記
指導主事
教育支援課長兼 和田 修二 教育支援課教育 麻生 仁
指導主事 支援担当課長
学び支援課長兼 小林 誠 教育総務課総務 阿部 優文
若者支援室長事務取扱 係長
- 5 開会時刻 午前9時30分
- 6 協議事項
- (1) 教育大綱について
 - (2) 海老名市部活動方針の実施状況について
 - (3) 海老名市保護者負担経費の在り方についての方針
 - (4) 杉久保小学校児童からの学校生活に関する提案
- 7 閉会時刻 午前11時15分

○**教育部長** ただいまから、平成30年度第3回海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日司会を務めます教育部長の岡田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。進行につきましては、本日お配りしております次第に沿って進めさせていただきます。初めに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。それでは、内野市長、お願ひいたします。

○**市長** おはようございます。平成30年度第3回の総合教育会議であります。この会議も平成27年からスタートいたしまして、4年目を迎えました。今日も議題になっておりますけれども、海老名市教育大綱の最終年度になりますから、来年度に向けてそういった大綱の見直し等を議題に議論をしていきたいと思っています。昨日ですか、大谷小学校の創立50周年に行きましたけれども、本当に歴史が長いなと思います。大谷小学校ができたのは昭和44年でありますから、私が中学校3年でありました。そのころから市内の人口がどんどん多くなってきました。海老名市が町から市になるちょうど転換期の工程だと思っています。今、並行しながら市内でごみの有料化について23の会場でやってきておまして、今日も3会場ありますけれども、そういったものは昭和40年代前半というのは、ごみ処理の始まった時期でもあるのです。その前まではごみがそんな大きな問題ではなかったわけでありまして、人口が多くなればなるほど、そういった問題とか学校の問題も出てきたのだなとつくづく感じます。そういった部分で考えてみますと、今後40年後をどうするのかということで、教育委員会も今、再整備計画をつくっておりますけれども、人口が減少しますので、この部分の環境をどうしていくかということがあると思います。歴史を刻んだ学校が統廃合という形で廃校になっているところが地方でいっぱいありますし、神奈川県下でも西部地区ではそういった形で始まっております。海老名市はどうかというと、あと7年間ぐらいは人口増で行きますけれども、7年後から人口減が始まります。そういった面で、先を見た形の中の1つの考え方を示していくということも必要ではないかと思っています。どうか今日は最終的には杉久保小学校の児童4名の方から提案を受けますので、その時間を十分にとりたいと思っていますので、皆様方の議事進行のご協力をお願いして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

○**教育部長** ありがとうございます。続きまして、伊藤教育長、お願ひいたします。

○**教育長** おはようございます。地域の方、先生方、来ていただいてありがとうございます。校長先生方もお世話さまでございます。私は、昨日も大谷小学校の50周年のときに言ったのですけれども、40年前に海老名に初めて来て、杉久保小学校、この学校に勤めまし

た。この辺の壁はそのままだし、後ろの卒業制作は全部つくったときのことも覚えているし、すごく懐かしくて懐かしくて、子どもたちが子どもの思いの中でさまざまなキャピタルタワーとかアスレチックとか言うのですけれども、あれをつくったときのことをすごく私は覚えていて、私はまだ23歳ぐらいだったのですが、ひとり暮らしで、土日になるとPTAの方などがいろいろな機材を持って来てくださって、それをPTAの人たちの手づくりでやったのですね。それというのは何かかと。子どもたちのために本当に自分たちがやれることというのを率先して、もちろん新しい学校だったこともあったのですけれども、そういうことをすごく覚えている。それが終わると、学校の中で校長も一緒に飲もうとか言うのだけれども、アルコールをそこでたしなんでよいかどうかわかりませんが、皆さんが野球グラウンドをつくりたいと言って若い先生たちがそこに集まって、地域の方と一緒に何かをつくり上げたりする。学校が何十年かたってさまざまな問題点が出たり、例えば私が立っているこの床だって、私が来たときはぴかぴかだったのにな、いろいろな汗がしみ込んだかなと思うのですけれども、でも、それらをどういうふうに改善していくかとか、よりよくしていくかというのは、やはり我々行政は行政ですが、学校は地域のものであって、みんなでそれをつくり上げていくのだという考え方が一番大事なことなのかなと。誰かがやれば事が済むのではなくて、みんなで学校のこと、子どものことを考えてこの先の学校づくりをしていくことが一番よいのかなと私自身は考えていますので、今、さまざまなそういった取り組みをしているところでございます。ぜひ今日は、我々教育行政、施策等の説明をいたしますので、ご意見をいただきたいと思っております。それでは、よろしく願いいたします。

○教育部長 ありがとうございます。それでは、協議に入る前に総合教育会議について簡単にご説明させていただきます。総合会議は、市長と教育委員会が連携しまして、教育大綱や教育の条件整備など重点的に講ずべき施策等について協議調整をする場となっております。その結果、調整が図られた場合は、その結果を尊重するというふうになっております。なお、本日、会議中、市長から保護者など傍聴の皆様にご意見を求める場合がございます。時間も限られておりますので、発言の際は簡潔にお願いしたいと思います。さらに、協議事項(4)につきましては、杉久保小学校の児童が学校に関する提案を発表しまして、市長、教育長と児童4名、そして教育委員と一緒に協議いたしますので、ご承知おきいただければと存じます。それでは、次第3の協議に入ります。案件につきましては、お手元の次第のとおり4件となっております。ここからの進行は、市長、お願いいた

します。

○市長 それでは、協議事項の(1)教育大綱についてを議題とします。初めに、事務局から説明をお願いいたします。

○教育部次長（総務・社会教育担当） おはようございます。よろしくお願ひいたします。それではまず、教育大綱についてご説明をさせていただきたいと思ひます。教育大綱とは、こちらに書いてございますように、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的施策についての目標や施策の根本となる方針、いわゆる教育に係る根幹となる方針でございます。その策定につきましては、この総合教育会議において市長、教育委員が協議調整し、市長が策定するものでございます。先ほど市長からもお話がありましたように、本市では平成27年4月に全国に先駆けて教育大綱が策定されているところでございます。次に、海老名市の教育大綱は具体的にどんなものなのかというのがこの図でございます。海老名市教育大綱の目標は、「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名でございます。そして、その実現のために、この3つの輪が描いてありますけれども、子どもたちの今と将来のしあわせのための教育、子どもと大人がともに成長する社会、そして家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくりに取り組むことを定めてございます。さらに、これを具体的に動かす方法として、教育施策の3つの柱を設定してございます。「えびなっ子」しあわせプランの推進、子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実、それから安全安心な環境と新たな学校施設への取組でございます。この計画期間につきましては4年間ということで、平成27年4月に策定いたしましたので、今年度いっぱいをもって計画期間が終了するというところでございます。なお、計画の位置づけにつきましては、ごらんになっていただいている左側に総合計画、これは市の基本的な計画でございます。その右に教育大綱がありますけれども、総合計画を十分に踏まえた上で教育部門の政策の最上位に位置するものがこの教育大綱でございます。次に、正面の画面に出ていますけれども、今ご説明させていただいたものを1枚にまとめたものがこの図でございます。今回はこの教育大綱にある教育施策、先ほどの3つの柱にぶら下がる各事業の実績及び成果、そして担当部課評価をご説明させていただきたいと思ひています。市長、教育委員の皆様にはこの担当部課評価を踏まえて施策についてのご意見やご質問を頂戴できればと考えてございます。なお、今回に当たって担当部課の評価を事前に行っております。評価方法でございますが、5段階評価とし、計画以上の成果が得られたものについては5点、計画どおりの成果が得られた場合には4点、計画どおりの成果が得られなかったけれども一定の成果が得られたという

のが3点、事業を実施したけれども計画どおりの成果が得られなかったものについては2点、計画はしたけれども実施をしなかったものについては0点ということで評価をさせていただきました。それでは続いて、先ほどの3つの施策についてご議論いただくために、まず1つ目の「えびなっ子」しあわせプランの推進の「学力」「集団力」「健康安全力」を身につける教育実践の実績と成果をご説明させていただきます。学力を向上させるために、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取り組みを、また集団力を育成するために人間関係づくり学習計画を、健康安全力を身につけるためにいのちを守る学習計画を、それぞれ正面の絵にあるように計画を策定しているところでございます。また、画面にはありませんけれども、それ以外にもさまざまなこういった冊子を作成して、これを活用して授業などを展開しているところでございます。これらの冊子につきましては教員の手づくりで、多くの教員の知恵とアイデアを出し合って作成したことに大きな価値があると考えてございます。担当部課評価といたしましては4でございます。次に、小中の9年間を見通した教育システムの実施の実績と成果でございます。有馬中学校区における小中一貫教育の研究により、乗り入れ事業であるとか教職員合同研修、児童生徒の交流事業など多様な取り組みを実施し、子どもたちを義務教育期間の小中9年間で育てるという意識を高めることができました。また、有馬中学校のこの研究をもとに、平成29年度から市内全ての中学校区で小中一貫教育を導入し、各中学校区にて同一の教育目標を掲げ、小中一貫教育の素地を固めることができたということは大きな成果であると考えてございます。担当部課評価としては4でございます。それから3つ目が、海老名型コミュニティスクール「おらが学校」の展開の実績と成果でございます。まずモデル校として平成28年度に東柏ヶ谷小学校、平成29年度に有馬中学校で導入いたしました。この取り組みは市内全小中学校におけるコミュニティスクール導入の指針になっているところでございます。そして本年の11月には市内小中学校全てに学校運営協議会が設置され、地域ごとにどのような子どもたちを育てるかという理念を地域の皆様と共有し、地域とともにある学校への第一歩を踏み出すことができたと考えてございます。担当部課評価としては4でございます。説明は以上になります。それでは1の「えびなっ子」しあわせプランの推進につきましてご意見、ご質問をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

○市長 ただいま3つの柱の1点目、「えびなっ子」しあわせプランの推進について説明がありました。教育委員さんから何かございますか。

○海野委員 それでは、最初に失礼いたします。今ご説明いただきましたが、すごく先生

方の努力というか、「えびなっ子」しあわせプランの推進の中の「学力」「集団力」「健康安全力」を身につける教育実践ということで、いろいろなハンドブックやリーフレットができましたけれども、本当にこれは海老名の先生による海老名の先生のための手引き書ということが一番に掲げられておまして、先生方がいかに子どもたちに学校に来る楽しみ、学校に来て、よりわかりやすい授業を受けるということについての具体的な手だてをもって先生方に教えていただいている、こういうものが作成されたということは一番素晴らしいことではないかと思います。今後ともこういう先生方の困っていることに気づきながら、先生方同士が授業改善を進めていただければ素晴らしいことではないかと思いました。

○市長 ありがとうございます。ほかにありますか。松樹委員さん、どうぞ。

○松樹委員 おはようございます。よろしく願いいたします。「えびなっ子」しあわせプランの推進ということで今ご説明いただきましたけれども、私も今、海野委員さんがおっしゃったように、一番初めのリーフレットとか、現場の先生とともに歩んでできたといえますか、主に現場の先生の意見でこういうのが実現したというのは一番素晴らしいことではないかと思います。ただ、コミュニティスクールは、もう何年も始まっているところもあったり、ここでやっと立ち上がりスタートラインに立ったところもありますので、これからどう支援ができて、どうやりとりをしながら進んでいけるのかというのを、学校側と教育委員会とお互いがお互いに情報交換しながら進めていかなければならない部分もあるのではないかと考えております。

○市長 平井委員さん、どうぞ。

○平井委員 もう教育大綱をつくってから4年目ということなのですが、私がいいなと思っていることは、施策を3つの柱にしたということが大きいかなと思います。そして、それぞれの中で視点が示されて、それぞれの部署の仕事の中身が明確化されているというところがすごく大きいかなと感じています。そういう中で1つ1つがきちんと実践され、また今後、課題もあるでしょうけれども、明確化されてきているというところは大きいかなと思います。その中で義務教育にかかわる公費負担のあり方の検討は、今までずっとナイーブな協議がなされている中で、なかなかそこに手をつけられないところがあったかと思うのですが、すごく大きな一歩を踏み出したところではあるかなと思います。いろいろな今の社会状況や家庭状況の中でさまざまな課題があったと思うのですが、そういうものが少しずつ解決されてきているのかなと思っています。子どもたちがよりよい教育を受ける

ためには、やはり全ての子どもたちが公平な形で学びに向かえるというのがいいのではないかと思いますので、そのあたりのところは1つ大きな成果なのかなと私は思っています。

○市長 「えびなっ子」しあわせプランの推進は3つありまして、3つの評価がありますが、4でもいいわけですね。これがスタートだから3かそのぐらいだけでも、まあ4でもいいやと。総括的には教育長からありますけれども、学校の先生にお聞きしたいのですが、学力等1点目と、小中9年間を見通した教育システムの実施というのは学校の先生方にかかわっています。「おらが学校」というのは、今日は地域の方、PTAの方もいらっしゃると思いますから、それは別に後で聞きますが、学校の校長先生、この2つの4、4は妥当だと思いますか。いいんですよ、うちは4じゃない、5じゃないかとかどうぞ。ここはどんどん言える場所ですから。教育長と校長の壁はありませんからどうぞ。

○杉久保小学校長 計画どおりの成果が得られたということになると思っています。小中一貫教育を進める上で、ここにもちょうど大谷中学校、大谷小学校がそろっていますけれども、何度も会議を重ねてきていろいろな議論をする中で、学校の管理職だけではない、それぞれの先生方もきちっと小学校の教育課程を中学校が知り、中学校の教育課程を私たちも知る中で、スムーズな円滑な引き継ぎができるように、子どもたちが安心できるような環境をつくってききましたので、今のところは4だと思っています。

○大谷小学校長 授業力改善のハンドブックに関しては、今までつくったものは机の中に入るのではなく、常に目に見える形で役に立てるということで、職員室の自分の机の横、常に見える形で授業に生かすように取り組んでいます。また、いのちを守る取り組みについては、小学校3年生は実際にバスを出していただいて公的な機関で全員同じ学習ができる、また1年生から6年生まで自分のいのちを守る計画を立てて実践していますので、4でいいのかなと思っています。

○大谷中学校長 特に小中一貫9年間の取り組みという部分については、有馬中学校区の先行的な研究があったわけですが、決してそれを海老名型ということで押しつけることなく、各中学校区の考え方とか特色も十分尊重していただきながら進めていただけたというところは大きな成果につながっていると自負しています。大谷中学校区の場合は、小学校と中学校の学校教育目標を新たに定め直して、9年間のゴールを定めて小学校1年生から中学校3年生までやっていきたいと思いますという中で、人間関係づくり9年間のプログラムを共同でつくるということを具体的に進めている部分もありますので、成果は4プラ

スアルファもあってよいと大谷中学校区は自負しております。

○市長 保護者の方、地域の方がいらっしゃいますけれども、3点目の「おらが学校」というのは地域なくしてありませんが、何かご意見とかを賜りたいと思います。どうかよろしくをお願いします。

○自治会長 元杉本小学校の役員、現四丁目自治会代表の前田でございます。「おらが学校」もあるのですけれども、先ほどの子どもと大人が学ぶ学校という件になるのですが、私は4年ぐらい杉本小学校で読み聞かせをやっておりました。その経験で一言言わせていただきたいのは、私のころに比べると、今、本が若干少なくなっているのかなと感じます。それと杉久保は都会から離れていて、そういう意味では昔のいい環境が非常に残っているところがあるのですけれども、反面、どうしても図書館等が遠いというのがございます。それで1つ、若干思いつきの提案なのですけれども、昔、我々が子どものときにあったような移動図書館みたいなものがもうちょっとぐるぐる回ると、また1つ子どもが本に触れ合う機会がふえるのかなと思いました。

○市長 ほかにはございますか。図書の関係は次の段階でありますから、そこで議論をしたいと思っておりますけれども、学校の図書が少ないというのは十分理解できます。そういったことで考えていきたいと思っておりますけれども、ほかにございますか。

では、なければ、教育長どうぞ。総括的に。

○教育長 今年プランについて教育委員会サイドから総合教育会議に初めて出しますので、私は4年間で1つの足跡が残ったなど。でも、これからでございます、まさにスタートだと思っています。ある程度のベースの整理はできたのですけれども、それを常に見直しながらかみ直しながらか前に進まなければいけないと思っていますので、そういう意味では4マイナス0.5、3.5ぐらいかなと私は思っています。これからさらに皆さんとともに、もちろん市長さんとみんな考えて、子どもたちのために前へ進むという意味で、4はつけ過ぎたかなと思っていますのでございます。

○市長 それでは1点目は、小中一貫校をやっていますね。これを私自身はよいことだなと思いました。小学校の先生と中学校の先生というのは、昔、意外と交流があるかなと思っていたのですが、全くないという話を聞いて、こういうのはよいことだと言っておまして、そういった部分で小学校、中学校の実態の中で議論をしていく。子どもたちの環境をどうするかとか、教育機会をどうするかとか、いろいろあると思っておりますけれども、意見交換をやることは絶対必要だと思いますので、忙しいと思っておりますけれども、そういった時

間をつくっていくということが1つの出発だと思いますから、よろしくお願ひしたい。それから「おらが学校」はスタートしたばかりですから、当然いろいろなことがありますけれども、地域の人にかかわっていただかないと、子どもの安全は確実に守れないと思っています。幾ら防犯カメラをつけても、地域が見守ることが必要なもので、今後も地域の方に学校から依頼をするという形がいろいろあると思います。うちの学区もですけども、立哨の人が少なくなってしまうと、うちの母ちゃんが月に1度立哨をやっているのです。それもそういう依頼があつて動いていますから、それぞれの学校は一緒に学習をやるだけではなくて、地域の方が学校の児童生徒のために何ができるかということも1つの発想だと思います。教育委員会ももちろんでありますけれども、地域の皆さんにある程度支えてもらうということが必要だと思います。あとのフォローはしっかりやっていただきたい。頼むことだけ頼んだら何も関係しないとか、そうではなくて、いろいろなフォローは必要だと思いますから、そういった部分もお願ひしたいということを私からつけ加えたいと思います。では、この1点目についてはよろしいでしょうか。では、2点目の子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実、先ほどの図書館もありましたけれども、それについて事務局からお願いします。

○教育部次長（総務・社会教育担当） それでは続きまして、2点目の子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実の子ども・学校支援事業の実践の実績と成果でございます。保護者と地域の方による子どもと学校支援を目的に、学校応援団を小学校13校に組織し、3年が経過してございます。夏休みを中心とした体験講座のえびなっ子スクール、放課後の遊びを提供するあそびっ子クラブが主な事業であり、毎年多くの児童並びに保護者、地域のボランティアの方々にご参加をいただいているところでございます。また、児童生徒の学習支援を目的とした補助授業や、小学校対象の自習教室「まなびっ子」を実施してございます。地域の方々と日ごろ子どもたちが学校では体験できない活動を企画運営できるということに大きな価値があると考えてございます。担当部課評価としては4でございます。次に、図書館・文化財の積極的な活用についての実績と成果でございます。市立図書館は平成26年度から指定管理者制度を導入し、民間のノウハウやアイデアを活用した管理運営を行っているところでございます。また、平成27年10月には中央図書館がリニューアルオープンしました。その際に導入した主なサービスでございますけれども、中央図書館については365日年中無休と、朝9時から夜9時までの開館時間の拡大をしてございます。また、子どもの専用フロアということで4階にキッズフロアを新たに設置させていただきま

した。ICタグ導入による自動貸出・返却サービス、体の不自由な方を対象とした無料宅配サービスなどもあわせて実施をしたところでございます。有馬図書館につきましては、学校図書館支援業務として小中学校に図書司書を派遣し、学校図書の環境整備、あるいは児童生徒への読書推進、教員の授業支援などを行っているところでございます。さらに両館共通した取り組みとしましては、図書の読み聞かせであるとか、講演会、ワークショップ、学べる学習等、さまざまな自主事業を展開され、来館者が導入前の中央図書館で見ますと1.75倍、貸出冊数も1.72倍ということでございます。また、小中学校の図書の貸し出しについては、小学校が1.7倍、中学校が11.4倍ということで、図書司書の派遣による効果が非常にあると考えてございます。以上のとおり、中央図書館、有馬図書館は立地や特色を生かした運営がなされ、多くの方にご利用いただいていると考えてございます。担当部課評価としては4でございます。なお、文化財につきましては、相模国分寺などを活用したむかしまつりを開催するなど、その活用に努めてきたところでございます。こちらについても、担当部課評価は4でございます。それから、3つ目の学校を拠点とした生涯学習社会と地域コミュニティの再構築の実績と成果でございます。家庭教育力の向上のために、市内小中学校19校、幼稚園8園で、PTA、市教育委員会を共催とする家庭教育学級を開催してございます。内容は、健康、運動、芸術といった講座から子育てに関するものまで非常に多岐にわたってございます。また、市民講座まなBINAを新たに立ち上げ、歴史、科学、法律などさまざまなテーマを設定し、広く市民の生涯学習の支援を図ったところでございます。幅広い層の方の参加をいただき、参加してよかった、あるいはぜひまた参加をしたいという声を多くいただいております。担当部課評価としては4でございます。説明は以上でございます。それでは、2の子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実についてご質問、ご意見をお願いいたします。

○市長 今、2の柱について説明がありました。よろしいでしょうか。松樹委員。

○松樹委員 学校を拠点とした生涯学習社会と地域コミュニティの再構築というところなのですが、市民講座まなBINAは大変盛況で、私の知り合いの方も抽せん待ちということで、大変好評だとは思いますが、これを今後の展開として各小学校だとか中学校だとか、わかりやすいのは地域の歴史、杉久保の歴史などというのは一番聞きたいのは杉久保に住んでいる方々だと思いますし、各学校で市民講座が開催されるような展開ができてくるとすばらしいのではないかと考えております。意見とさせていただきます。

○市長 市民講座の会場はどこでやっているの。

○就学支援課長 参加者が多いものはビナレッジを使っておりますが、それ以外は文化会館を使っております。

○市長 今、松樹委員が言った地域の拠点として学校でやるという発想がおもしろいですよね。施設の問題はありますけれども、地域の人が学ぼうというときに、特に小学校は時間がある程度早く終わりますから、その後、学校の教室を使うということも1つあると私も思います。ほかにはありますか。どうぞ、海野委員。

○海野委員 2番目の子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実というところで、今、絵手紙教室とか勾玉教室で子どもたちが歴史とか海老名の温故館にある内容を参考に描いたりとか、すごく興味を持っていると思うのですね。それで1つお願いなのですが、前に一度、温故館の品物を学校の体育館に並べて、温故館に行かなくても子どもたちが直接手に触れることができたのですよね。そういう機会を学校に、出前講座みたいなものを学校ごとで企画していただけたらよいかということも1つ思いました。

○平井委員 学校に司書を派遣していただくことが実践できたということは、すごく大きいなと思っています。そして、図書室の見直しをしてくださったというのは、なかなか学校の手だけではできなかったところを、相当な予算もかけていただきながら部屋の改装、それから新しい図書の購入ということで、子どもたちには新鮮な図書室になったのではないかと思います。今、情報機器のほうで子どもたちは動きつつある中で、やはり本に親しんでほしいという思いがありますので、そのあたりのところはますます充実をしていただきたいと思います。

○教育長 先ほどご質問いただいたことで私のほうでお答えします。実を言うと学校の図書室をきれいにしようということで、2年間で数千万円のお金をかけて順次整備しました。それは各学校で図書室のレイアウトを司書と図書館ごとに絵を描いてもらって、それに沿ったレイアウトの機材なり、書棚を置いたりカウンターを置いたりしました。現状、それが一段落して、今は図書費の増大で、その2年間の前に比べれば、来年は多分2倍ぐらいの図書費が各学校について、そこから本の充実を進めたいと思いますので、その辺はご理解をいただきたいと思います。そのときも私のほうで各小学校を回って本を見たのですが、実を言うとちょっと困ったのは、社会科のいろいろな資料とか日本の何とかというものが、昭和30年代、40年代の資料がありますので、子どもたちの学習に使うものは最新のものにかえてほしいということも言いました。あと子どもたちに言われたのは、私の好きな本が入っていないと言われたことがありまして、今度購入のときには、どこの

学校でもやっていると思うのですけれども、子どものリクエスト本みたいなものが購入できる、そういうシステムも必要だなと感じているところでございます。これから将来、充実しますのでご期待ください。

○市長 これについて校長先生、コメントはいいですか。皆さんから何かありますか。図書の関係はよろしいですか。結局はお金の問題なのですよ。お金を多く出せば図書は買えますから。問題は、今、図書館が2つあって、指定管理でいろいろな話題を呼んでいます。それはそれとして、市民が多く行っている図書館だということは私も認知をしています。悪い点について指摘があったものについては直していきたいと思っておりますけれども、1つだけ新しい試みがありまして、有馬図書館があります。その横に門沢橋コミセンがありまして、門沢橋コミセンも今まで地域の人が運営しておりましたけれども、指定管理で民間が運営するようになりました。これは新しい図書館とコミセンの運営ですから、どちらかということコミセン自体が生涯学習の中に取り込まれるという考え方だと私は思います。新しい試みで、12館ありますから、その1館が民間になりますから、今後コミセンの運営等をどうやっていくかというのは1つのきっかけになるのではないかという形でやっております。地域のコミセンや文化センター、それから学校が1つの図書館のイメージを持つということは絶対必要だと私は思っていますから、どういう形よいかということ、まず子どもたちの図書を多くしていこう、それから地域の中でどうなのかということは、拠点を決めてやることも必要だなとつくづく思います。なぜかということ、南部地域は中央図書館から遠いのですから、地域性の中で検討する余地もあるのだろうと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。図書館と文化財は、私はよいと思うのですけれども、私の評価とすると利用率はすごくよい。内容については指摘があるということで、点数は4がついたと。これは点数をつけること自体が何かおかしくないですか。

○教育長 これは参考につけようと。

○市長 評価をつけるのかなと。やっぱり教育委員会だね。5、4、3、2と分けなくても、別に元気になるばよいじゃない。こうやって評価をつけるのは余り好きじゃないけどね、特に教育はそう思っています。あと市民講座については松樹委員が言ったとおり工夫してください。いつまでもビナレッジを使うのではなくて、ビナレッジは活動センターだから、講座とかそういうのは学校、公民館は海老名市にはないので、コミセンとかいろいろな工夫をするようにお願ひしたいと思ひます。そうしないと、ビナレッジは混んではかりいますから。混んでしまつてしょうがないので。駐車場も狭いという形でありますか

ら、よろしくお願ひしたいと思ひます。2点目はよろしいですか。それでは、3点目に移ります。よろしくお願ひします。

○教育部次長（総務・社会教育担当） それでは、最後に3つ目の柱です。安全安心な環境と新たな学校施設への取組の安全安心な子育て環境の整備の実績と成果でございます。シートを3つ用意しました。まず通学路でございます。取り組みとしましては、防犯カメラの設置と通学路の点検を行ってございます。防犯カメラにつきましては、市内通学路計38カ所に防犯カメラを設置してございます。また、通学路の点検につきましては、通学路改善要望を学校から挙げていただいて、警察など関係機関による合同点検を行っております。協議の上、改善も図っているところでございます。なお、平成30年度は防犯上の視点から危険箇所の合同緊急点検も実施をしたところでございます。防犯カメラ、あるいは通学路の点検につきましては、通学路の安全確保が図られるとともに、安全意識の向上、犯罪抑止にも寄与するというところで、担当部課評価としては4でございます。次に、きれいで居心地のよい学校づくりでございます。海老名市は市長の理解のもとに教室へのエアコン設置、学校トイレの改修、温水洗浄便座の設置、掃除機の導入等、これまでもきれいな居心地のよい学校づくりを他市に先駆けて実施をしてございます。正面の写真にあるのは屋内運動場、これは体育館のトイレ改修でございます。改修の内容は、今まで床は水で濡れていましたけれども、それを乾式ということで乾いた状態にする。それから便器が和式だったものを洋式に、それと洗浄便座——よくウォシュレットなどという表現がありますがけれども、それを設置する工事を平成28年度までに全ての体育館で実施してございます。いつも使うトイレが清潔で気持ちよければ、衛生面だけではなく、精神面でもよい影響があると考えてございます。学校生活はもちろん、災害時にはこちらは避難所にもなりますので、それらの活用を踏まえて担当部課評価としては4でございます。次に、食の安全でございます。食の創造館が平成27年8月に指定管理者制度を導入し、市内小学校12校に約7300食の給食を安全に提供してございます。また、自主事業として学校給食への理解を広めるために、食の創造館の調理室を活用して、親子で給食の人気メニューをつくる講座などを実施してございます。食材につきましても海老名市産のイチゴを市内の農家から直接搬入するなど、顔の見える地産地消の取り組みも行っているところでございます。また、給食の安全安心のために海老名市学校給食異物混入対応マニュアルを策定し、作業工程ごとにおける混入防止、仮に出た場合の危機管理対応策もまとめてございます。これらの取り組みにより、基本的に大きな事故もなく、安全でおいしい給食が子どもたちに提供がで

きていると考えてございまして、担当部課評価としては4でございます。それから義務教育に係る公費負担のあり方の検討の実績と成果でございます。事業といたしましては、教材費の無償化及び保護者負担の軽減、学校徴収のあり方について取り組んでいるところでございます。まず教材費の無償化につきましては、市内の小中学校の新1年生を対象に、教材費の公費負担を行い、無償化を図ってございます。これにより、新入学時の保護者の皆様の負担の軽減が図られております。また、保護者負担の軽減につきましては、本年に保護者負担経費検討委員会から、制服あるいは教材費等の保護者負担のあり方についての答申を受けました。それで、その方針を定めてございます。その結果、柔道着、彫刻刀については公費負担で各学校に備えて、新たに新規購入がないようにしてございます。また、ジャージについては新たにコンペ方式を行うということが方針の中にありまして、試行的に海老名中学校で実施したところ、価格的にも非常に安く、質のよいジャージが選定できたという結果報告を受けてございます。さらに、学校の徴収金についてでございます。既に給食費の納入については、他市ですと先生が集めるような形が多いのですが、公会計をとっておりまして、基本的には学校がお金を扱わないような体制が整っています。さらに児童手当から充当ができるように、そして生活保護費を受給されている方については代理納付ができる、さらにはコンビニ収納もあわせて実施をいたしました。保護者の納入に係る負担軽減が図られたと考えてございます。担当部課評価としては5でございます。最後、地域住民が集う学校施設のあり方の検討の実績と成果でございます。本年9月に海老名市学校施設再整備計画を策定いたしました。この計画は、学校施設の劣化状況、将来の財政見通し、児童生徒数の将来推計なども踏まえて今後の学校施設整備の方針を示したものでございます。計画では、学校は地域におけるコミュニティの核である。先ほどコミュニティスクールの話もありましたけれども、まさに学校を核として、他の公共施設の複合化、多機能化を図り、子どもから高齢者まで幅広く市民が集い、語り、学べる場。つまりおらが学校、みんなの学校として進化することを目指す旨が、持続可能で夢のある計画としてまとめられてございます。以上のことから、担当部課評価としては4でございます。説明は以上になります。3の安全安心な環境と新たな学校施設への取組について、ご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

○市長 ただいま3本の柱について説明がありました。各委員さんからありましたら。よろしいですか。これは再整備計画をつくったということで4になっていますから、今後これをどうやっていくかという問題と、あと保護者負担軽減はいろいろありますから、評価

としてはいろいろされていますけれども、切りがないというのがあって、どこまでやるのかと。これについては教育委員会としてもしっかりと議論が必要だと思います。全て無料というのはどうなのかなということもあります。どこで線を引いていくかが難しいので、セーフティーネットという意味はありますから、生活困窮者とかそういったところは重要になりますけれども、教育委員会の中でいろいろと吟味していただいて。意外と政治的に動かれるものがいっぱいあるから。中学校給食がそうじゃないですか。一定の議論の方向は必要だと思っているのです。首長の選挙になると、中学校給食はすごく話題になります。教育委員会と学校の先生方で、中学校給食をやると時間をとられますから、そういった部分と、経費とか環境面で議論が必要だと思います。今、教育長ともいろいろ話をしていのですが、一定の方向を出さないと、選挙のたびにそういった話題が復活する。子どもの関係というのは、そういうものではないと思うのですね。どんなことがあっても、お金がかかっても、やるべきことはやっていくという考えでありますから、そういった部分はよろしくお願ひしたい。1点だけ、ある中学校3年生が来年高校へ行くのに、第1志望で海老名高校へ行ったようなのです。その子どもが海老名高校のトイレを見て、あんなところへ行きたくないといって座間高校へ変更した。なぜかというと、海老名市立の中学校はきれいで、高校は相当汚いのですね。そういったことがありますから、やってよかったなと思いましたがけれども、またこれがスタートですから環境整備をやっていきたいと思ひます。それでは、これにつきましては以上であります。見直しの関係がありましたら、次回以降見直していただきたいと思ひます。次期の教育大綱の作業をしていただいて、どうするか、よろしくお願ひします。1点だけ、教育大綱の中でもよいのですが、グローバル社会と言われているでしょう。来年、ワールドカップ、次の年がオリンピック・パラリンピックですから、語学力の向上とか、地域の人たちにも英語、スペイン語、中国語、いろいろ達者な方がいらっしゃいますから、小学校1年生からずっとやっていると、週に1回ぐらいやっていると、すごく語学力は高まるのではないかと思ひます。授業ではなくて、何かそういったもので今後のグローバル社会に対応する子どもたちの育成というのは、ちょっと頭の中に入れてお願ひしたいなど。そういった意見がありましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、(2)の海老名市部活動方針の実施状況について事務局からお願ひします。

○教育部次長（学校教育担当）部活動につきましては、この数年来、国のほうでも大分話題になっておりまして、メディア等でも報道が多くされているところがございますが、海

老名市のほうでは国や県に先駆けましてこの総合教育会議でもご議論いただきまして、それから昨年度は部活動検討委員会というものを立ち上げまして、年7回、協議を重ねまして、国、県に先駆けまして、去年の1月に海老名市独自の部活動方針を立ち上げたところでございます。今日は今年度からの実施状況をご報告させていただきますが、その前に昨年度策定いたしました部活動方針の内容について簡単にご説明をさせていただきます。全体は、スライドにありますように4つの柱から成り立っております。それでは、1つ目です。まずは海老名市部活動のねらいについて明確にしようということで、これまではそれぞれの部活動の顧問であるとか学校ごとに校長がねらいを定めていたところを、海老名市の部活動はこのようなねらいで行っていこうというところを明確化しました。2つ目の柱といたしまして、活動日数と活動時間について、規定、配慮事項ということで定めました。少し簡単にまとめたものがこのようになります。まず活動日数と活動時間の規定といたしまして、週1日は必ず休養日をとりようということで、それまでいろいろな調査を行いますと、大体3分の1ぐらいの部活動は1週間、7日間全く休みなしですと部活動を行っているという現状がございました。週に1日、月曜日から日曜日のスパンで必ず休養日をとりようというもの。それから、朝練習は毎日ではなくて、週4日以内にしようというもの。それから夏休みについては連続で休みの日、3日以上連続休養日を必ずとりようというもの。それから配慮事項といたしまして、土曜日、日曜日の練習ですが、両方ともいわゆる1日練習、終日の活動をするのではなくて、2日ともやる場合でも、どちらかは半日以上休養時間を必ず設けようという配慮。それから長期休業中の休みが続く場合、1日練習を3日続けるということをしな。1日練習、1日練習と2日間続いたら、3日目は休みにするか半日練習という形にして、子どもたちの体の負担を減らしていこうというものでございます。次に、3つ目の柱といたしまして、部活動指導員の導入を決定いたしました。この部活動指導員というのは、平成29年度、昨年度から国が認めたものでございまして、教員ではない外部の指導者が顧問と同じように活動ができる。例えば部活動指導員がついていけば大会にも出場できる、そういう外部指導員のことでございます。つぎに、4つ目の柱でございますが、医療との連携です。調査によると、海老名市の中学生は非常にけがが多いということがわかりまして、特に運動部の生徒につきましては3人に1人が何らかの故障、特に関節の故障を抱えているとか、過去に抱えていたということがわかりました。そこで、整形外科医師、トレーナーを中学校に派遣いたしまして、けがの防止であるとか、効果的なトレーニング方法を直接子どもたちに伝えることに取り組むとい

うことを決定いたしました。以上が昨年度に策定いたしました部活動方針の内容でございます。続きまして、今年度4月からこの部活動方針に沿って全中学校の全部活動を進めているわけですが、その実施状況についてご説明いたします。まず活動日数と活動時間についてですが、実施状況はこの表にあるような形ですが、この管理方法といたしましては、月ごとの活動の計画表及び実績をそれぞれの顧問が紙にまとめまして、まず保護者等に周知する前に学校長に提出する。学校長がきちんと規定を満たしているか等をチェックして、顧問に戻して、顧問は保護者に周知をする。それと同時に、校長から教育委員会のほうに全ての部活動の月ごとの予定表が参りますので、教育委員会のほうでも活動規定を満たしているかという加点をしております。5月から加点を始めまして、9月までの実施状況がこのようになっております。ほとんどの部活動で、最初のうちは1週間の区切りの部分がまだ浸透しなかったところがございますが、月ごとに達成率は上がってまいりまして、ほぼ全ての部活動で規定、配慮事項ともに達成されているという状況でございます。続きまして、外部指導者についてです。先ほど申し上げました部活動顧問と同等の外部指導者ですね。部活動指導員を今年度は全中学校で合計11名派遣いたしました。それにあわせて、部活動支援員、これが今までも顧問がいるところで一緒にずっとやっていたのですけれども、顧問も必ずしもその種目の専門家ではないときもございますので、技術的な部分を補完して子どもたちに指導してくれるという支援員を41名派遣いたしました。次に、医療との連携でございます。まず、2学期に整形外科医師、これは海老名市内の産業医の先生が中心になりまして、3名の整形外科医師の先生にご協力をいただきまして、それぞれの中学校で1回ずつ、今6校中5校が終わったところがございますが、子どもたちの前でいろいろな講演をしていただいております。とにかく子どもたちは部活動をやりたくて、やりたくてしょうがないという、そういう気持ちもございますが、きちんと休みをとることでパフォーマンスが上がる、筋力も毎日毎日トレーニングをしていればいいわけではなくて、きちんと休むことで、より筋力が増強されるのだよという話であるとか、あとは成長期の体の仕組みですね。小学生とも違う、大人とも違う、骨が先に伸びて筋肉がいつも引っ張られている状況なので、中学生はこういうところを気をつけないと故障を起こすんだよという話をとてもわかりやすくやっていただいたところがございます。あわせて、これからなのですが、3学期にスポーツトレーナーを学校に派遣して、今度は直接、こういうやり方でトレーニングをするとこういう効果があるよということで、部活動の代表が集まって伝達をしたいと考えております。次になります。10月に生徒たちの声を

調査いたしました。各学年1クラスの抽出で、全部で600名ほどの生徒にアンケートをとったのですが、週1日の休みについてどう思うかということにつきましては、89%、約9割の生徒が「よい」「どちらかというといよい」と答えております。続きまして、土日半日以上以上の休みをどう思うかということについても、91%の生徒が「よい」「どちらかというといよい」と答えております。その理由といたしましては、「よい」の理由が疲れがとれる。疲れがとれるというのがとても多かったです。今まで疲れていたのだなととても思ったところでした。それから勉強や宿題をする時間ができる。友達や家族と過ごせるというものです。それから「よくない」の理由、休みがないほうが良いと言っている子どもたちは、うまくない、楽しいからもっとやりたいということで、まだ子どもたちの中には休むとうまくないとか、勝てないと思っている子どもも多いのだなということで、その後、整形外科医師の話聞いて、休むことも大事なのだということがわかってきたらなと思っているところ。続きまして、今後も部活動方針を推進していくにあたりまして、今年度から海老名市部活動推進協議会というものを、これは来年度以降も続けていくものでございますが、設置してございます。メンバーには整形外科医師であるとか、校長先生、顧問の代表、保護者の代表の方にも入っていただいて、年に何回か協議を進めてまいります。それから部活動専門指導員ということで、市の教育委員会のほうに1名、社会教育指導員を配置いたしまして、この部活動方針の実施状況の確認であるとか、実際に学校を回ってそれぞれの部活動の安全面の確認であるとか、部活動の指導員の研修や面談等を行っているところ。部活動方針の進捗、実施状況につきましては以上でございます。

○市長 ただいま部活動の関連について説明がありました。これは始まったばかりだからよいですね。校長先生等、何か業務がふえたとか、そういうのはないですか。大丈夫ですか。顧問も大丈夫ですか。保護者の方は何かありますか。よろしいですか。一步一步点検をしながらやるように言っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。では、この部分はこれで終わりにさせていただいて、協議事項(3)、海老名市保護者負担経費のあり方についての方針を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

○就学支援課長 おはようございます。先ほど教育大綱の中でも説明があつたのですが、改めて保護者負担経費のあり方についてご報告をいたします。海老名市教育委員会では、平成29年に保護者負担経費検討委員会を設置しました。その目的なのですが、保護者負担経費のあり方について検討・協議し、海老名市としての方向性を示すことにあります。検

討委員会の構成メンバーとしましては、小中学校の保護者代表、小中学校の校長会の代表、総勢13名で構成されています。検討委員会は8回開催されました。その中でさまざまな視点で協議を行っています。その協議内容が報告書としてまとめられましたので、教育委員会のほうに提出をしております。教育委員会のほうではこれを受けて、30年9月にご審議いただきまして、保護者負担経費のあり方としての方針を定めています。この方針については9つの項目と、その他という形で定められています。ここからは、その方針の内容について読み上げていきたいと思えます。まず制服についてです。各校の仕様書を作成し、業者に広く周知することによって、取扱店・販売店の拡大を図る。市ホームページに各校の制服・ジャージ服の販売店、価格等を公開することで、入学以前から保護者が情報を入手できるようにする。仕様等を変更する場合は、汎用性があり流通している生地を使用する。制服のリユース方法についての検討です。続いてジャージ服（上下）についてです。各校で選定委員会を組織し、仕様書を作成した上でコンペを行う。決定業者との契約期間は3年から6年を目安とする。カラー分けについては各校で必要性の議論を行う。ハーフパンツについても、ジャージ服（下）との関連でコンペを行うとしています。続いて、上履き（兼体育館履き）についてです。各校で選定委員会を組織し、仕様書を作成した上でコンペ等を行う。決定業者との契約期間は3年から6年を目安とする。続いて、運動用Tシャツ・短パン・ワイシャツ・ポロシャツについてです。仕様を定めた上で自由化が望ましい。全ての学校が平成31年度からの実施が望ましい。学校で指定していないものについても、学校から保護者に対し、基本仕様に沿ったものであれば販売店以外でも自由に買えることを周知する必要がある。続いて、修学旅行についてです。決定した内容は、保護者に実施の趣旨を正しく理解してもらえよう十分周知し、説明責任を果たしていく。保護者や児童・生徒の意見を聞くことを検討する。複数の旅行会社によるプレゼンテーションなどを実施する際には、上限金額は伝えないことを検討する。さまざまな課題があるため、今後の方向性については別途検討会を立ち上げて検討することも考える。続いて、教材についてです。学校で指定していないものについても、学校から保護者に対し、基本仕様に沿ったものであれば、販売店以外でも自由に買えることを周知する必要がある。卒業アルバムです。選定委員会で検討の上、学校ごとのコンペ等の実施を検討する。続いて、学校からの保護者説明についてです。入学時に小学校は6年間、中学校は3年間で必要な経費及びスケジュールについて、年度当初の4月には各学年の1年間のスケジュールについて学校から保護者へ説明する。公的支援についてです。毎年活用するもの

で仕様頻度の低い教材については、無償貸与をすることを検討する。最後、その他についてです。その他としましては、ジャージ服、上履き、教材等について先行的な取り組みを参考にし、学校が日常で使用しているさまざまなものについてコンペ等で決めていくことを検討する。あわせて、条件を設定の上、市販品も可とするなど一定の自由度を持たせる方法も検討する。ジャージ服（上下）等の選定に当たっては、必要に応じて選定委員会を開催し、選定委員会の委員に第三者を入れて選定する。コンペ等取り組みの実施後は、各校及び教育委員会において効果検証を実施し、軽減効果が図られない場合は他の方策を検討する。各校が自主的、継続的に見直しを講じられるよう、教育委員会として全校の状況がわかる資料を作成して公開したり、他市の動向に関する情報を提供したりする。教育委員会は、選定に当たって公平性・透明性の確保に努める。最後になりますが、本提言の内容は、今後の状況により適宜見直していく必要があると思います。今後も状況を注視し、さまざまな意見を取り入れながら適正な時期に見直しを行い、よりよい取り組みになるよう努めていきたいと思っています。事務局からの説明は以上でございます。

○市長 ありがとうございます。これは10月に教育委員会で決定したのですね。学校の校長先生方に周知していますよね。特に中学校6校は統一性が必要なので、よろしく願いしたい。学校の協力なくして実現できませんから、発想の転換からスケールメリットを求めると安くなりますよね。そういった部分をよろしく願いしたいと思います。保護者の方、ありますか。このごろ子どもたちが市長への手紙に、修学旅行の民泊をやめてくれといっぱいきています。それを教育委員会に言ってあります。1つは、なぜ私が民泊は方向転換してくれと言うのかは、山とか、いわゆる地方に行くじゃないですか。そうすると、民泊をやると、大地震とか災害があったときに、子どもたちの安全の状況が把握できないのです。各地方へ行くと、修学旅行で来ているから海老名の子どもたちを助けてあげたいと誰も思わない。それぞれの当該自治体は住民のことで精いっぱいです。だから安全上どうなのかということを知ってほしい。民泊をやっていると何十カ所とか多数に分かれてしまうので、地震があったときに確実に災害がないとは絶対に言えない。田舎は意外とそういうことがある。建物の耐震化を図っているか図っていないか、そこまでの調査もできない。その部分が子どもの安全上の問題で、みんなが一緒にいたほうが安全管理はしやすいというところがある。富士ふれあいの森で言われたのは、富士山が噴火すると火砕流が10分か15分で富士ふれあいの森に行ってしまうのですね。もう助けられない。あその町に言いに行ったら、そんな海老名市の子どもたちのために救助隊を出せないとわれ

た。だから、今ある東山荘は東名高速道路で1時間行けば助けられますから、うちの救助隊が行けるわけです。どこへ行っても子どもたちの安全管理というのは特に気にしていただきたい。今、災害が多いので、その部分が最大の気持ちでありますから、特に頭に入れてお願いしたい。民泊がよい悪いじゃなくて、災害の安全上どうなのかなど、私はそう思いますね。その辺はお願いしたいなと思います。それでは、ここでこの部分については終わりにしたいと思います。ここで5分、45分から始めたいと思います。休憩をしましょう。よろしくお願いします。

○**教育部長** お疲れさまです。それでは、杉久保小学校の子どもたちからの提案をいただきますので、レイアウト変更を行います。少しお待ちください。

(休 憩)

○**教育部長** それでは、再開をさせていただきます。次第(4)、杉久保小学校児童からの学校生活に関する提案でございます。こちらの協議のねらいといたしましては、大人の目線だけではなくて、児童の新しい発想、柔軟な考え、そして夢のある提案等をお聞きして施策の参考にしていきたいということで企画をしたものでございます。それでは、改めてご入場いただきます。杉久保小学校児童の皆さんです。どうぞ皆さん、大きな拍手でお迎えください。

(拍手)

(杉久保小学校児童入場)

○**教育部長** 児童の皆さん、こんにちは。今日はありがとうございます。それでは、自己紹介をした上で、1人1人提案をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(児童自己紹介)

○**児童(1)** 今から学校生活についての提案をさせていただきます。

○**児童(3)** 僕たちは今日のために1年生から6年生までの児童が学校生活にどんなことを望んでいるのかを調査するためのアンケートをつくって、全校児童に取り組んでもらいました。それをもとに杉久保小学校をよりよい学校にするにはどんなことが必要かを話し合いました。今から僕たちの学校生活の中で、こうなったらいいなということや、自分たちの力で改善していこうと考えていることの両方を提案したいと思います。

○**児童(4)** 提案を始めます。最初の提案は「家庭科室をもっと使いやすく！」です。こちらをごらんください。何かお気づきになることはありませんか。調理台にご注目ください。杉久保小学校の家庭科室にある調理台にはコンロが1台しかありません。5年生から

家庭科の授業が始まり、これまでに何度か調理実習を行いました。ご飯とみそ汁をつくる学習や夕ご飯のおかずづくりなどで2品つくるときに効率が悪く、先につくったものが冷めてしまうなどの不便さを感じました。先生方にお聞きしたところ、他校のほとんどでは各調理台で2台ずつコンロがあるということで、私たちはいくつかの案を出し合って話し合ってみました。最初に出た案は、キャンプや家庭でお鍋をするときに使う卓上カセットコンロを使用するという案です。しかし、卓上コンロは事故が多いのではという意見が出て、この案は難しいという結果になりました。そこで、安全で便利なものはないかと考え、IH調理器具がよいのではないかとということになりました。IHであれば安全を確保することができ、事故を防ぐことができると思います。しかし、それでも問題が1つあります。私は調理クラブに所属しているのですが、先日、スイートポテトパイをつくるために家庭科室でオーブンを使用したところ、電気を多く使ってしまったためか、家庭科室のブレーカーが落ちてしまったのです。IH調理器具を各グループで使用した場合の電気使用量がどれぐらいかはわかりませんが、もしIHを使うとなった場合は電気の工事もしていただきたいです。これから先、下級生たちは家庭科で調理実習をするのをとても楽しみにしています。調理クラブに入りたいという人もとても多いです。なので、今の家庭科室がより便利で使いやすくなることを私は願っています。これで私の提案を終わります。

(拍手)

○児童(3) 次の提案に移ります。2つ目の提案は「学校をすみずみまできれいにしたい！」です。杉久保小学校は創立40周年です。壁や床などの汚れが目立つようになってきました。僕たち6年生は見本清掃をし、下級生のお手本になるように一生懸命掃除をするという取り組みをしています。掃除時間には教室にあるほうきやちり取りなどを使うほかにも、廊下の黒ずみをきれいにするために先生にメラミンスポンジを用意してもらって磨いたり、窓掃除や鏡をきれいにするには新聞紙を使うとよいと聞いたので、それらを実践したりしながら掃除をしています。全校アンケートの中にも、廊下や階段などをもっときれいにしたいという回答がありました。今のままで不便さはないのですが、掃除機が各クラスや特別教室にあるとよいのではないかと考えました。図工で版画をしたり、電動のこぎりで木を切ることかあります。そのときに出る木くずなどはなかなかほうきでは取りきれません。裁縫をしたときに落ちる糸くずなどは見つけづらく、ほうきに絡まり取りにくいのです。また、低学年の子が広い図工室や長い廊下を掃除する場合、時間内にやりきれないときもあります。そんなときに自分たちが使いやすい手軽な掃除機があるとうれしいで

す。ぜひお願いします。これで僕の提案を終わります。

(拍手)

○児童(2) 次の提案に入ります。3つ目の提案は「こどもの森をもっと楽しく！ 校内にも木のぬくもりを」です。全校アンケートの回答で一番多かったものは、森に遊具をつかってほしいという意見でした。ターザンロープ、ブランコ、ハンモック、アスレチック、滑り台などという具体的な遊具の名前も書かれていました。今残っているアスレチックは6年前に閉鎖され、僕も遊ぶことができず、残念に思っています。きっと杉久保小学校の子どもたちの多くが同じ思いなのではないでしょうか。しかし、今年の夏に「こっちゃんテラス」をつくっていただいたことで、低学年の子たちが喜んで遊ぶ姿が見られるようになりました。低学年の子たちが楽しく遊んでいる様子から、森に遊具が復活したら、もっとたくさん子どもたちで森がにぎやかになると考えました。そこで、僕たちは「こっちゃんテラス」をつくってくださった学校応援団の方にお話を伺いました。昔はお城やアスレチックなどの遊具があったこと、それらは使われなくなった木の電柱をもらってきて、当時のPTAの方々が協力してつくられたこと、しかし、時がたつにつれて木やロープが老朽化し、遊ぶには危険なものになってしまったことなど詳しく教えていただきました。そして今は使用停止になっているアスレチックをつくり直すという計画を進めてくださっているということをお聞きし、次のように考えてみました。高さのある遊具などは危険を伴うこともあるということだったので、丸太を使った平均台のようなものや、ベッドのような遊具はどうでしょうか。また、テーブルや椅子などがあると、そこに座っておしゃべりを楽しんだりできるのではないかと思います。もしできたら、そこで給食を食べるというのも楽しそうです。ぜひ実現したらいいなと思います。

杉久保小学校の看板ともいえる森にたくさんの笑い声が響きわたることを願っています。森の遊具のことについては僕たちの力ではどうすることもできません。そこで、自分たちが何かできることはないかも考え、森がある杉久保小学校らしく、校内にも自然のぬくもりが感じられるものにしようという計画を立てました。プラスチックやラミネート加工でつけられている案内板や教室表示板を木製にリニューアルし、森の木の実や枝などを使って自然のぬくもりが感じられるものにしようという計画です。僕たちが卒業するときの、6年生の総合学習で、杉久保小学校への恩返しという活動で製作していきたいと思います。僕たちが卒業する3月までに完成させる予定です。もし機会がありましたら、ぜひ見にいらしてください。これで僕の提案を終わります。

(拍手)

○**児童(1)** 最後の提案に入ります。4つ目の提案は「すぎまるくんを地域に広めたい！」です。すぎまるくんは私たちの学校のマスコットです。1年生から6年生まで親しみを持っています。あいさつ運動をするときに、あいさつリーダーになった人はこのようなすぎまるバッジをつけたり、移動集会の名前をすぎまる集会という名前にしたりなど、いろいろな行事や児童会の取り組みで多く使われています。今回はすぎまるくんを校内だけではなく、学区内や地域にも広めたいと考えました。私たちのすぎまるくんを、より多くの人と共有したいです。そこで、どのようにして地域へとすぎまるくんを広められるかを考えました。1つ目のアイデアは、私たちを見守ってくださるボランティアの方々や、朝、旗振りをしてくださっているおうちの方々のベストや洋服にすぎまるくんバッジをつけてもらうということです。自分たちのよく知っているすぎまるくんを身につけてもらいたいです。2つ目は、学区のこども110番の家の看板にすぎまるくんをつけるというアイデアです。看板にすぎまるくんがついていれば、私たちの安心感が増すと思うからです。バッジやシールのデザインは、今、私たち6年生が総合学習の時間に考えています。バッジやシールに加工するところで協力していただけるとうれしいです。これで私たちの提案を終わります。(拍手)

○**教育部長** 皆さん、ありがとうございました。では、市長、よろしくお願いします。

○**市長** 教育委員さん、何か質問はありますか。よい提案だと思うのですよ。松樹さん。

○**松樹委員** 最後の杉久保小学校のキャラクター「すぎまるくん」はすごくかわいいキャラクターで、地域の方、いろいろな方にバッジをつけてほしいという願いは本当によいアイデアというか、よい思いだと思います。先ほど校長先生用のすぎまるくんも校長先生に見せていただいたのですが、いろいろな方に広めるというので缶バッジをつくってみたり、シールをつくってみたり、実際に缶バッジにしようと思ったら、缶バッジをいくつつくったらいくらぐらいかかるのだろうかとか、お金もかかってくるので、その辺もみんなが検討しながらやっていただければなと思っております。余談話ですが、できればこの出身のいきものがかりの山下君、水野君にも缶バッジを渡してあげて、もしかしてNHKの紅白でつけてくれるかどうかわかりませんが、大人の事情でつけてくれないかもしれないですが、そんな思いはいろいろなところに杉久保小学校の思いを伝えていってもらいたいなと思っております。

○**平井委員** 学校の清掃を一生懸命しているという姿に心を打たれます。上級生として下

級生に見本も示そうということ、それからいろいろと工夫してやっているというところなので、その掃除に必要なものが購入できるといいかなと思います。小さなスポンジを使っても、学校の床掃除というのはなかなかきれいにならないですよ。時間ばかりかかるし、清掃の時間の中ではなかなか大変なのかなと思います。でも、愛着を持って6年間過ごした学校をきれいにして中学に行きたいなという皆さんの思いが伝わってきて、何かよいものがあればいいなと思いますので、よろしくお願いします。

○市長 教育長、総括で最後に言ってくださいよ。私が見解を述べますので。事務レベルでこれに対して見解を用意したので、どうしてもここで言うておきたいというのはあるの？ ない。では、俺が言ったことをちゃんとメモって、財政課と話してくださいね。市長がオーケーしたからって財政へ持って行ってはだめだよ。1点目、ひどいコンロは何とかしましょう。IHにすると電気の問題がありますから、コンロにするかしないか。もう1つは、皆さんの身長の問題があるじゃないですか。炊事場から板を置いてコンロを置くと高くなりますよね。そうすると台が必要になります。そういった部分を研究しながら、この改善は早急にやりたい。なぜかといいますと、学校は最大の避難所になっていますから、家庭科室は必要なものなのですね。避難した人たちが温かいものを食べるとか煮炊きするというのは必要なので、これは早急に危機管理の面から対応していきたい。杉久保小学校だけではなくて、ほかの学校も全部調査をして一気にできればやりたいと思っていますので、卒業までには間に合わないかもね。中学校はいろいろあると思いますから、よろしくお願いします。2点目、掃除機。学校に全て掃除機を配置したけれども、点検してくれる？ どういう使われ方をしているか、クラスに何台あるか、全部点検。それから今言われた技術室とかそういったところについては、今、掃除機自体がダイソンだとかコードレスになっているじゃないですか。そういう部分を点検しないと、教室ではコードがあることによって邪魔だというのががあるから、その部分を研究して、電化製品は大体5年で終わりだから、ちょうど切りかえの時期になろうかと思うので、よく調査をしてやってください。6年生だから、中学校は大谷中学校？ 先生、よろしくね。それから、こどもの森の関係、これはおもしろいなと思って、1つは、みんな知らないかもしれないのだけれども、弥生神社って知っている？ あそこに行くと公園があつて、県央で一番長い滑り台を配置したのです。ところが、交通の便が悪いということと駐車場がないということで、利用者が少ないと言われている。それで一回、杉久保小学校の南側にある公園に移そうと思ったのです。4,500万円ぐらいかけてつくって、移設するのに3,000万円かかると言われて

躊躇してしまったのです。言いかえれば、こういった部分を校長先生と相談させていただいて、予算がかかるので、どうするかは教育委員会で。これだけの森があるのは、ここしかない。だから、そういったものを大事にして、それぞれ子どもたちが元気よく遊べる場所という形で考えていくことは必要なので、全部一斉にできないかもしれないけれども、順番にやっていくことは必要ではないかと思うので、検討してみたいと思っています。この表示板はおもしろくてよいなと思うし、それからキャラクターはいろいろなことができると思います。学校の壁面にみんなで絵を描くとかね。それから、こども110番についてはここだけではなくて、えび〜にゃは今、うちのキャラクターだけれども、学校でそれぞれ考えてもよいな。学校の子どもたちがやったことを、そうすると未来永劫ずっと続くのか、皆さんがいて終わりになるのか、そこら辺は考えないといけないのではないかなと思うよね。今、これがよいと言っても、それをずっと使うのかという問題があるから、ゆるキャラでも今、一世を風靡したけれども徐々にやめようという話になっているじゃないですか。そのキャラクターというものをどう方法を考えていくかというのをもっと考えていただいて、つくろうと思えばすぐつくれるので、業者の方に頼めばバッチぐらいつく簡単につくれると思うのです。問題は、それをずっと残すのか残さないのかという1つのことがあるのではないかと思います。一応全部お話しさせていただきましたけれども、できることはすぐやりたいと思いますから、来年度予算に計上するような形で検討に入るものは検討してください。しかしながら、財政当局がいますから、財政がオーケーしないとできませんから、それは説得力を持った形でよろしくお願ひしたいと思っています。では教育長、総括を。

○教育長 提案ありがとうございます。会議の前に、2回ぐらいあなたたちと話して、本当に学校のことを考えているのだなと思って。最初、家庭科室と言われたとき、僕もどきどきとして、まずいなと、早くあれは直さなければなと実は思った次第です。でも、あそこを君たちが最初に提案したとき、2つの教室をぶち抜いてと言ったじゃない。あそこと理科室を一緒に。でも、よくよく考えたら杉久保小学校は本当に多いときにあそこは教室だったのです。だから抜けなかったというのは、そこに子どもたちが入って1,000人規模に近いような学校でやっていました。だから杉久保小学校の理科室などはすごく広いですが、家庭科室は小さいのです。でも、今度のことは本当に教育委員会のほうで、市長の指示もありますので早急に対応しますので。あとは皆さんの提案を受けて、学校をきれいにしたいということで、大掃除の日があるの？ 6年生で決めた、大掃除の日とい

うのがある？ もしこんなでっかい業務用の掃除機が欲しいとかなら、こどもセンターとか市役所の方々が使っているのがあるから、この日が大掃除の日と決まったら、それを我々が借りてきてみんなで使うというのはどうかなと思いました。きれいにしてほしいです。それからこどもの森は、学校応援団の方とかボランティアの方とか地域のPTAの方々と一緒に協力してもらってつくってください。すぎまるくん、私は子どもたちの提案を去年からずっと入れて、皆さんの提案と言っています。それで何で私は気づかないのかなと思って、今考えたのは、今年は申しわけないのですけれども、来年から市長、子ども予算というのをつくろうかと思って。これは財政とも関係がありますからあれですけれども、子どもたちが自分たちで提案してこれをやりたいということは、子どもたちがそれを実現できるような予算の枠があると、今の木の飾りかなんかでも、子どもたちが先生たちと話して予算を使ってそれを買えたり、缶バッジもつくれたり、子どもたちが真剣に学校のこととか自分たちの生活を考えたときに、それを教育委員会で予算化して、それを裏づけるものが必要かなと考えていまして、しっかり財政に要求しておきますのでよろしくお願いします。

○市長 大丈夫？ 勝手に使っちゃだめだよ。つけるのはよいですけど、学校の自由化という思いになってしまうから。大丈夫ですか。それでは、できることとできないことがありますけれども、できることは即やっていきたいと思いますから。本当にそうですね。大掃除用の何かは買ってよいよね。それがあれば13校で回していてもよいし、2校で1個でもよい。だけど、今、掃除機などは性能がよくなっているから、今、前回入れたのがちょうど切りかえの時期だと思うのですね。そこでどう考えるか、しっかりやっていきたい。検証しましょう。検証して、実態はどうかと見てやっていきたいと思います。小学校6年生では無理だと思いますけれども、中学校で少し変わると思いますから期待してください。ありがとうございました。（拍手）

○教育部長 それでは、全日程が終了いたしました。杉久保小学校児童の皆さん、ありがとうございました。そのまま、おかけになったままで結構です。それでは、事務連絡をさせていただきます。次回の総合教育会議は来年、年明けの2月16日土曜日、10時からビナレッジホールで予定をしております。皆様の参加をお待ちしております。以上をもちまして、第3回海老名市総合教育会議を閉会いたします。長時間にわたりどうもありがとうございました。お疲れさまでした。

（拍手）